

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 198号

平成30年10月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (10)

10月2日

心の楽しみはよい薬である。(箴言 17・22)

幸福な日々を送る秘訣は、私たちの外的状況の如何によるのではなく、私たちの心の中のものであります。朝ごとに、たくさん御言葉を読んで、主の尊い御約束に心の窓を明け放し、時にかなった熱い祈りをし、あなたの出会う人々に、一つまた二つの善行をなすとき、あなたの表情は明るくなります。そして、あなたの足はその日の歩みのために「めじかの足」のようになります。もし、あなたが目に見えない痛みや苦しみをなくしたいと思うなら、それらをあなたの受けた恵みの下に葬ってしまいなさい。一日一日を神と共に始めなさい。そして、あなたは主と共に歩み、どんなでこぼこの道においても、どんなに激しく吹く風に直面しても、天のふるさとに向かって歩き続けなさい。その日を、また毎日をイエスのために行き、「小羊

がそのあかりである」都、そして夜はもはやない都に行き着くまで
そうしなさい。

ひとつの勇敢なひらめきが、多くの困難を吹き払ってしまう。

10月3日

正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。(箴言4・18)

その皮肉屋の詩人は言います。「老齡は暗黒である」と。クリスチャンの生涯は、その中傷に反駁します。最も輝かしい金色の色は、たそがれ時に空にあらわれます。一日の最後の輝きは、金色の光なのです。

一瞬、空しく打ち寄せる物憂気な波は
ここでは、少しも前進しないように見える
ずっと彼方の小川や入り江を通過して
静かに流れてきて
大海原に流れ込む
また東側の窓のみならず
夜明けがくると、すべてが明るくなる
前方に太陽がゆっくりと登って来る
なんとゆっくりなんだろう
しかしふと西側を見ると
全地は輝いている

A・H・クルー

10月7日

私たちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。

(ヨハネ15・4)

主よ、年を取ったら、私を二つの悪から守って下さい。一つは非常に多くの旅人が陥りやすい愚痴や批判やあらさがしの習性から、もう一つは、霊性がぼけたり、緩慢になったりしないように私を守って下さい。この弱さ愚かさ、狡猾さ、その他罪に対して、いつも大きく目を開かせてください。しかし、私の心がいつも優しくあわれみ深く、希望にあふれているようにしてください。

真理への忠誠において確固不動でありますように。またいつも、真理とは何かについて明確であるように、私を助けてください。年を取っても、少しも迷い出ることのないようにしてください。

香料のつぼに落ちたはえのように、小さな過ちにも陥らないようにして下さい。それはあなたにささげた生涯を台無しにしてしまうからです。

サムエル・ブレングル

人生の夕暮れ時にも、光がある。それは輝かしい夕暮れではなく、新しい日の出の光である。

10月8日

イスラエルが荒野に歩んだ45年の間、主は言われたように、わたしを生きながらえさせてくださいました。わたしは今日すでに85歳ですが、今もなお、モーセがわたしをつかわした日のように、健やかです。わたしの今の力は、あの時の力に劣らず、どんな働きにも、戦いにも耐えることができます。(ヨシュア 14・10, 11)

神は正しく豊かに、この老聖徒をお取り扱いになりました。85歳の時、彼はその生涯で最大の困難な事業のチャレンジを受けました。40年の荒野の生活は、彼のビジョンを曇らせず、彼の信仰を弱らせず、その青年の時の熱意を鈍らせず、体力さえ、減退させませんでした。これが、主に絶対的に従う人々の受け継ぐ分なのです。年齢は、神の力を阻む者ではありません。

マッコーネル博士は70歳の時、アトランタ市に大きな教会を建てました。J・ハドソン・テラーは、70歳の時に精力的に新しい地域を福音化してゆき、祈りをもって中国奥地へ新しい宣教団体を送り出しました。ジョージ・ミューラーは90歳の時、なおも1500人の孤児を収容する仕事を拡大してだけでなく、宗教的文書を出版し、5, 6カ所の宣教地へ、宣教師を送り出す仕事を拡大拡張していました。だからカレブは年を取った時に、アナキ人の要塞に登って行って、その所から彼らを追い払い、その町を占領したのであります。

10月9日

だから明日のことを考えて心を悩ましてはならない。あすにはあすの心配があるのだから。(マタイ 6・34(バークレー訳))

あなたも私も試みや暗黒の日々や、孤独で長い夜を耐えていかなければなりません。そして、私たちは主のところに行って言ひましょう。「何とかしてください。あなたこそは、真っ暗な夜を明るい朝に変えてしまうことのできる素晴らしい友です。私のために、この問題を何とかしてください」。

夕方、私は静かな声がこういうのを聞いた
昨日のことを明日にまで背負っていくな
先週の悲しい重荷を今秋の重荷にするな
重荷が臨んだらすべて取り去れ
過ぎ去っていく事柄で、現在を測るな
一歩そしてもう一歩とあなたの道を獲得し、その日その日を生きよ
あなたの道の周りの木の葉はしおれたとしても
太陽の光の中を歩め…
前向きに上向きに、微笑みつつ祈れ
一日一日を生きよ
今日は、あなたが昨日悩んでいた明日なのである。

10月14日

正しいものの道は夜明けの光のようだ、輝き続け真昼に至る。

(箴言4・18)(ローザム訳)

…あなたは、神がどんな人にも、人生の初めの半分だけを最善にするようになさると信ずることが出来るでしょうか。神が始められたら、神が成し遂げられます。神は始められたことを完成なさいます。もしあなたが、その場で香りを放ち続けるならば、いつかどこかで神の栄光を見るのです。

私たちの時間は、御手の中にある

すべてを私が計画した

若い時にその半分ができた

神に信頼し、全体を見極めよ

また、決して恐れてはならない

私たちがすべきことは、老齢を恐れることでも、老齢に立ち向かうことでもありません。むしろ、迷わずそれを受け入れ、適用することなのです。老齢を忍耐したり、順応させたりしてはいけません。むしろ、人生におけるこの場をしっかりとふまえて、そこから何か美しいものを造り出さない。

10月16日

私は長寿をもって彼を満ち足らせ、わが救いを彼に示すであろう。

(詩篇 91・16)

ああ、年老いた心臓が動きを止めるまで、何事も遅すぎるということはありません。ローマのカトー将軍は80歳の時ギリシャ語を習得し、ソポクレスは彼の大作「オイデプス」と「シモニデス」を書きました。彼らにはそれぞれ80歳を過ぎてから、やっと、その時代の人々より賛辞を得ました。

チャーサーが、ウッドストックでナイチンゲールとともに「カンタベリー物語」を書いたのは、60歳の時でした。ゲーテは、ワイマールで最後まで仕事をしたのですが、「ファウスト」を完成したのは80歳を超えていました。

老齡は青年時代に劣らず、チャンスです。たとえ形は違ったとしても、たそがれの光が消えてゆく時、空が昼間見えない星でいっぱいになるように。

ヘンリー・W・ロングフェロー

年を取ったからと言って、気おくれする必要はない。あなたが一つの命からもう一つの命へと「歩む」時、あなたの本当の力は衰えない。

10月19日

そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただ一人そこにおられた。(マタイ 14・23)

かってハイドンが、他の有名な音楽家と一緒にいた時、そのうちのひとりが、大変な努力をしたあと、どうしたらいちばん早く力を回復できるかと聞きました。

いろいろな方法が提案されましたが、ハイドンがしているのはどんな方法かと聞かれて、彼はこう答えました。「私は家に小さなチャペルを持っています。私は仕事のために弱さを覚えると、そこに行って祈ります。この治療法で失敗したことはありません」。

ハイドンが正しいことは、他の経験者も語っています。信頼して祈る時、私たちはすべての力の根源を得るのです。

マダム・ガイオンはこう書いています。「私は、神と共に過ごす創造的なすばらしい時間を愛しています。」

神と共にいる静思の時は、人と共にいる全生涯に匹敵する。

10月22日

しかし、主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。(イザヤ書 40・31)

ヘンリー・ワッツウォーズ・ロングフェローが年老いたとき、彼の頭の毛は雪のように白かったが、彼の頬はバラのように赤かったのです。彼の熱心な崇拜者が、どうして彼がそんなにも元気な上に、こんなにも美しい文を書けるのかと彼に尋ねました。近くにある花を咲かせたりんごの木を指さして、その詩人はこう答えました。

「このリンゴの木はとても古いのです。しかし私は、今咲いている花ほどきれいな花を今まで見たことがありません。この木は、毎年新しい小枝をつけ、そして、そこからあのような花が咲くのだと思います。このりんごの木のように、私も、毎年、新しい小枝をつけてゆくようにしたいと思います」。

収穫の時が訪れ、すべての者はみな

蒔いた種を刈り取らなければならない

あるものは、無駄に帰してしまった時を

苦々しく歎かざるを得ないだろう

かたや、あるものは

よろこびと平安の心で

作物を束ねるであろう

日暮れの時が訪れ、今や業は終了した

影は長くなり、太陽は沈みかけている

荷は重く、労は困難である

しかし、高価な報酬は、とこしえに絶えることがない

10月26日

そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。(エレミヤ6・16)

病のために床に伏していますか。いいえ、それは静思の時を持つためなのです。「主は私を緑の牧場に伏させ」という「牧者詩篇」の一節の中に、私は一度ならず何度も大きな慰めを自分の経験において見出しました。特に「伏させ」という部分を、私は強調したいのです。私たちは、必ずしも自ら望んで休息を求めるというのではなく、時には、穏やかに説き伏せられるという経験が必要なのです。神は私を、常に神経が張りつめた状態にしておかれません。高級なバイオリンでさえ、時にはその弦をゆるめておく必要があるのと同様に、私の主もまた、私に歩みを与えて下さるのです。

しかもまた、私たちが伏すところは、誇り臭い道でもなく、荒涼たる山腹でもなく、緑の牧場であるということは、喜ばしいことです。私たちが立ちどまり、野に伏させられるという、常に、ただ休息のためであり、新しくされるためなのです。その時は無駄ではないのです。

J・R・ミラ

—

10月29日

水の上におのが高殿のうつばりを置き、雲をおのれのいくさ車とし、風の翼に乗り歩き、(詩篇 104・3)

時に黒ずみ、かげり、陽光をさえぎる人生の雲。しかしそれが、まさに神の戦車であると、私たちは確信する時があるものです。

あなたの今の試練が雷雲であったとしても、それは雲のひだに眠っている、七色の虹を伴うものであることを信じましょう。

ああ、私の雲を、あなたの戦車にして下さい

そうすれば、栄光を曇らす雲が

実はあなたからの光であったことがわかるでしょう

荒野の影が、私に対して声をあげて歌うので

雲が近づく時、私は

あなたがすぐそこまで来ておられることを知るでしょう

あなたの抱くすべての恐れ以上に

あなたに対して善なる神は、ついには苦悩が天の門の掛け金をも

ち上げ

あなたを永遠の休息に至らせるその時まで

おそらくあなたのために、苦悩を残しておかれるでありましょう。